

市民が思う 男女共同参画

VOL.19

今回は、市民（男女共同参画懇話会委員）の方にご意見を伺いました。



内山 真由美さん(泉町)

「男女共同参画」について考える

「男女共同参画」と一口で言っていますが、その範囲は非常に広く、少子高齢化対策、税制、年金、社会福祉など、私たちの幸福を左右するような重大なことが多く含まれ、広範囲な分野での取り組みが求められています。

私たちの地域・家庭など身近な範囲の事柄として、「性による差別」「男・女との理由だけでの役割分担」などは問題があり、改善していこうといわれますが、現状はどうでしょう。いわれない差別は当然無くさなければいけません

んが、男と女の区別は当然あります。女でなければ、また、男でなければできないこともあります。お互いの違いを認め合い、協力し、分担していくことまでを「差別」のように見る考えには、違和感を覚えます。

外に出て働くことだけでなく、専業主婦の家事も大切な仕事です。自信を持ってプロの専業主婦になる。これも立派な「男女共同参画」であると思います。

「男と女が同じでなければ」という一元的な考えだけでなく、お互いの違いを認め合い、それぞれの特質を最大限に発揮できる社会を作っていくことも必要でしょう。

「男女共同参画について考える」ということは、普段の私たちの生活や行動、社会規範・風習などについて「もう一度考えてみよう」ということではないでしょうか。

教育 夢 発信

肥田小学校附属幼稚園

「地域交流活動を通して」



【音楽で広げる交流の場】

選択音楽の授業を受けている肥田中学校の生徒が、園児たちの前で歌や楽器演奏を披露してくれました。幼稚園と中学校との音楽交流が持たれています。

『猫ふんじゃった』や『サザエさん』『ドラえもん』のテーマソングを、ギターやマンドリンの伴奏や合唱に合わせて、園児たちも一緒に口ずさみ、大喜びです。

「今度はいつ来るの？」と、次回を楽しみにしている園児の声を中学生に伝えると、それを張り合いに、また練習をしてくれているようです。地の利を生かした交流を、今後も続けていきたいと考えています。



【「土名人」の手ほどきを受けて】

地場産業に親しんでもらおうと、平成十一年から年に一・二回、セラテクノ土岐の専門家による手ほどきを受け、粘土細工に取り組んでいます。

子どもらしい土へのかかわり方を大事にしてくださいるので、園児たちは伸び伸びと粘土をいじり、様々な作品が出来上がります。土名人も、素焼きから釉薬掛け、焼成など完成までを応援してください。

作品は、二月下旬から開催される織部の日記念事業の「ちびっこ陶展」に出品します。ぜひ、園児の素朴な作品を見にきてください。

何年かたって、幼稚園児たちが中学生や大人になったとき、今度は逆の立場で、生き生きとして音楽や陶器作りを教えにきてくれることを願っています。